

連携・協働のカ・タ・チ

令和2年8月5日発行 福島県教育庁会津教育事務所



共に支え合い、誰もが安心して暮らせる街をつくりたい①

～障がいを持つ方と健常者の架け橋に～ 県立喜多方東高等学校 家庭クラブ

今回及び次回の2回にわたり、県立喜多方東高等学校家庭クラブの、市の関係機関等と連携した地域貢献活動の取組について紹介します。

《活動のきっかけは、ある盲導犬ユーザーの事故から...》

平成28年に東京のとある駅で、盲導犬ユーザーがホームから線路に落下し、死亡しました。あまりにも悲しい出来事に、「他人事ではない」と、家庭クラブの先輩方が活動を始めました。喜多方東高には、「生活と福祉」という選択科目があります。授業の中で、手話の基本を学習したことから、「聴覚に障がいのある方の支援ができれば」と考えたことがきっかけとなり活動がスタートし、今年で4年目を迎えました。

《調査！ 体験！ 交流！ 活動スタート》

次の様々な調査や模擬体験等から活動が始まりました。

- ・喜多方市内の点字ブロックの設置状況調査
- ・アイマスクをして白杖や補助犬で歩いてみる活動
- ・市内飲食店への補助犬の入店についてのアンケート調査
- ・市の手話サークルとの交流
- ・障がい者支援に関する高校生の意識調査

【補助犬歩行の体験をする生徒】→



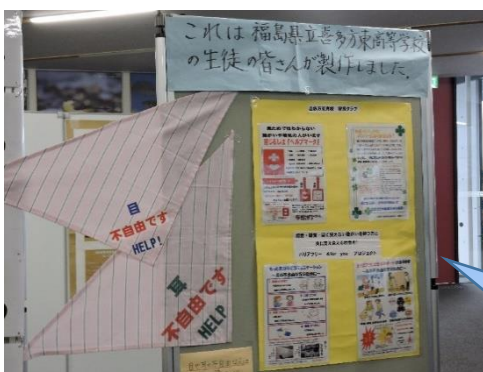
《校内外へ情報発信！ イベント開催！ 学習グッズ製作！》



家庭クラブ員が、活動の基本理念として心がけていることは、目や耳に障がいを持つ方々からの聞き取り調査を大事にすること、収集した情報を校内外に発信し、障がいを持つ方の困り感を多くの人に理解してもらうことです。

令和元年度は、障がいを持つ方々からの聞き取り調査をもとに、自分たちができる支援方法をまとめたポスターやリーフレットの作成、地域の方も参加できる盲導犬ユーザーのトークイベントの開催、手話の基本を学べる学習グッズの製作などに取り組みました。

学習グッズは、障がい者週間に市役所に掲示したほか市民活動フェスティバルなどでも活用されています。



左の写真は、サポートポスター・リーフレット・災害時バンダナを市役所福祉課に提案した際の様子です。(令和元年12月)

次号では、イベント開催の様子や生徒の感想等について紹介します！